

## 16 『歎異抄』の現代社会へのメッセージ

【全2回】／開催方法：現地

たなか  
田中ケネス  
武蔵野大学名誉教授



受講料 会員料金：¥5,000 早割価格：¥4,000（納入期限：10月31日）

【日程・時間】【全2回】 11月6日(日) 13:30~15:00・15:20~16:50

■受講に必要なもの

[テキスト] レジюме配布

『歎異抄』は、浄土真宗の宗門の壁を越え注目され、幅広い層の人々の間で人気を呼んでいる宗教書物です。海外でも日本仏教を代表する書物として数ヶ国語に訳され、英語だけでも10冊以上の訳が存在します。

今回は英訳を通して『歎異抄』を学びましたが、今回は、日本語で本書の要点を見ていくことにします。『歎異抄』は、日本が誇ることができる素晴らしい宗教書ではありますが、そこには、宗教的価値観に基づきながら、現代の社会的問題を考えるメッセージが潜んでいると思われます。

それらのメッセージは、現代社会における差別、分断、格差などに対する平等観、自己反省、一体性、主体性などの価値が含まれていると言えます。例えば、第5章で親鸞は、「一切の衆生が父母・兄弟である」という趣旨なことを述べています。もちろん種々な解釈は可能ですが、ここに、親鸞の平等観と一体性を見出すことができ、宗教的な視点より経済的格差や他者への偏見と差別などを考え、行動と実践の原動力につながると考えます。

どうかこの講座で、個人の内面の安定だけでなく、世の中の種々な課題に積極的に向き合えるメッセージを、一緒に『歎異抄』から発掘致しましょう。